



KUSEP

金沢大学短期留学プログラム

1998.10～1999.9

目 次

金沢のまち	1
金沢大学概要	2
金沢大学短期留学プログラムの概要	3
1.プログラムの目的 2.出願資格 3.受入予定人数 4.受入期間及び時期 5.学年暦 6.教育プログラム 7.成績評価・単位互換 8.指導体制 9.修了証書の授与	
教育プログラム	6
1.コア・カリキュラム 2.サブ・コア・カリキュラム 3.専門コース 4.自主研究	
出願手続	12
1.出願書類 2.締切り期日 3.提出先 4.結果の通知	
必要経費	13
1.授業料等 2.生活費	
日本国際教育協会奨学金制度	13
交流協定校一覧	14
入国手続	15
学生生活	15
1.住居 2.食事・買物 3.健康管理 4.国民健康保険 5.医療費補助 6.課外活動・レクリエーション 7.アルバイト 8.交流団体 9.交流行事	
金沢大学までの経路・大学キャンパス	17

金沢のまち

1 概要

金沢市は、石川県の県都であり、人口46万人を超える日本海側有数の都市の一つである。4世紀の長きにわたり戦禍に見舞われなかったため、「森の都」といわれるほど豊かな緑を誇っている。

また、加賀百万石の城下町として発展してきた金沢市は、先祖から受け継いだ武家屋敷、寺院群、用水等の伝統環境の保存に努め、江戸時代の面影をそのまま残し、四季を通じて市民生活に潤いと安らぎを与えている。

個性的で格調高い環境と調和しながら近代都市へと発展した金沢市は、東京や大阪等の大都市とは異なり、まれにみる日本のな都市である。金沢は、江戸時代から学問・工芸を重んじ、日本国内のみならず海外からも書物を集め、学者・芸術家を厚遇し、「天下の書府」といわれた学都でもある。香り高い文化・芸術は今に受け継がれ、加賀宝生・加賀万歳などの古典芸能、加賀友禅・金銀箔・九谷焼・漆器・加賀蒔絵等の伝統工芸の宝庫である。

2 気候

金沢市は、春夏秋冬の四季がはっきりしている。しかしながら、日本の中でも年間を通じて湿度が高い方で、特に、冬は降雨(雪)量が多い。



(香林坊)



(石川門)

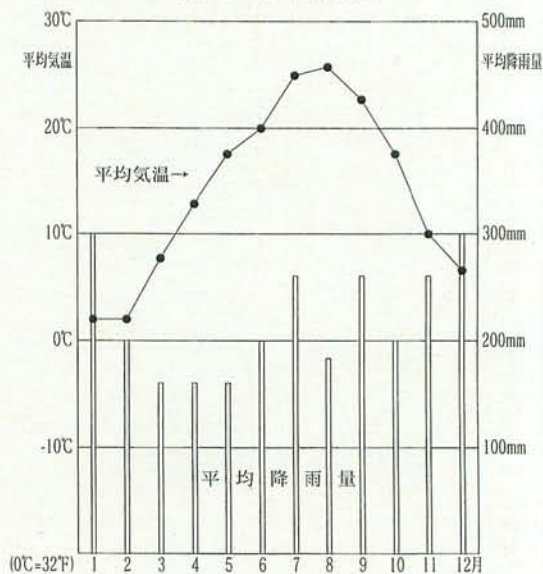


(那谷寺)



(尾山神社)

各月の平均気温、降水量



金沢大学 概

金沢大学は、1949年の国立学校設置法の施行に基づき金沢医科大学をはじめとする当時の7つの高等教育機関を統合し設置された。そのうち金沢医科大学は、1862年まで創設をさかのぼることができる。

以来、大学は拡大し、現在、8学部(文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、薬学部、工学部)、10大学院(修士課程7、博士課程3)、1研究所(がん研究所)、2附属病院(医学部附属病院、がん研究所附属病院)、7学内共同教育研究施設(大学教育開放センター、アイソトープ総合センター、遺伝子実験施設、総合情報処理センター、共同研究センター、留学生センター、外国語教育研究センター)及び3学内共同利用施設(極低温研究室、環境保全センター、資料館)が設置されている。

学生数は、1997年5月現在で学部学生8,189人、大学院生1,758人、計9,947人で、更に402人の科目等履修生等の非正規生が在籍している。教職員数は2,247人です。

また、外国人留学生は、31の国・地域から正規生として201人、非正規生として75人、計276人が在籍している。



(金沢大学・北キャンパス)

金沢大学 短期留学 プログラムの概要

1

プログラムの目的

金沢大学短期留学プログラム【Kanazawa University Student Exchange Program (KUSEP)】は、金沢大学と交流協定等を締結している大学から留学生を受け入れ、日本語教育、英語による日本事情・日本文化及び各専門分野の授業科目を提供する特別の教育プログラムです。

このプログラムの教育を通じ、また、広く世界の学生と金沢大学の学生との交流を進めながら、日本への理解を深めていくこと及び国際社会で活躍する人材に育つことを期待しています。

更に、この短期留学をきっかけに、日本に関する研究あるいは金沢大学で専門的な研究に取り組む動機となることを期待しています。

2

出願資格

金沢大学短期留学プログラムに出願できる者は、次の4つの条件を満たしていなければなりません。

- ①金沢大学と交流協定を締結している大学(14ページ参照)又は交流協定の話し合いを進めている大学の学部3年生以上の正規生あるいは大学院修士課程に在籍する正規生
- ②原則として、財団法人日本国際教育協会の短期留学制度の奨学金応募資格を満たしている学生(13ページ参照)
- ③講義内容を理解できる英語の能力があること。

なお、日本での生活を円滑に過ごすため、渡日前に150時間以上の日本語教育を受けていることが望ましい。

- ④心身ともに健康である者

3

受入予定人数

20人



4

受入期間及び時期

- (1)受入れの期間は、原則として1年間ですが、秋学期又は春学期の1学期の受入れも可能です。

- (2)入学の時期は、原則として10月又は4月です。

5

学年暦

- (1)このプログラムの学期は、次の2学期に分けられています。

秋学期：10月1日～翌年3月31日

春学期：4月1日～9月30日

- (2)授業期間は、原則として次の期間に行われます。

秋学期：10月中旬～翌年2月中旬(15週)

春学期：4月中旬～8月初旬(15週)

- (3)日曜日及び土曜日、国民の休日(年間15日)等は、休業日となります。その他冬季、春季、夏季に休業期間が設けられますが、このプログラムの受講生は、自主研修を行うこととしております。

6

教育プログラム

教育プログラムは、以下のとおりですが、サブ・コア・カリキュラム及び専門コースの授業は、履修届を出し、担当教官の許可を得る必要があります。

また、このプログラム以外の各学部で開講されている授業を受講する場合には、あらかじめ授業担当教官の許可を得る必要があります。いずれの場合も渡日後に留学生センターの教官と相談してください。

(1)コア・カリキュラム (必修科目)

日本語の能力に応じ日本語初級、日本語中級のうちから、秋学期5単位、春学期5単位が必修となります。

- ・日本語初級：秋学期5単位、春学期5単位
- ・日本語中級：秋学期5単位、春学期5単位

(2)サブ・コア・カリキュラム (選択必修科目)

日本事情、日本文化、日本の自然関係を学ぶコースで、秋学期及び春学期を通じて2科目が必修となります。

- ・日本人の心理と思想：秋学期2単位
- ・科学風土紀－加賀・能登のサイエンス－：秋学期2単位
- ・日本の社会と文化：春学期2単位
- ・日本の自然と生物：春学期2単位

(3)専門コース (選択科目)

①秋学期

- ・英語学演習Ⅰ：2単位
- ・東アジアの国際政治：4単位
- ・日本経済：発展の過程と世界経済との関係：1単位
- ・身近な微生物と地球環境：2単位
- ・数学A：2単位
- ・Introduction to Modern Physics：2単位
- ・Introductory experimental Physics：2単位
- ・ハロー・ケミストリー－化学最前線－：2単位
- ・化学課題研究：3.5単位
- ・植物と環境：2単位
- ・計算科学A：2単位
- ・東洋医学：2単位
- ・土木建設工学総論：2単位
- ・計算機援用工学演習：2単位
- ・自主研究：2単位

②春学期

- ・数学B：2単位
- ・物質化学概論：2単位
- ・化学課題研究：3.5単位
- ・計算科学B：2単位
- ・電気・電子・情報工学の技法：2単位
- ・流体力学と伝熱－環境と地球物理への応用－：2単位
- ・高分子化学入門：2単位
- ・自主研究：2単位



7

成績評価・単位互換

- (1)このプログラムの受講生に対しては、履修した授業科目、成績評価及び単位数が記載された成績証明書が発行されます。
- (2)金沢大学が発行する成績証明書に基づき、留学生を派遣した大学において単位の認定が行われます。
- (3)学位取得に関係する(卒業若しくは修了)単位に認定するかどうかの判断は、金沢大学ではなく、留学生が在籍している派遣元の大学に委ねられています。

8

指導体制

自主研究を行う留学生には、その専門分野の教官が研究指導に当たります。
また、学生のチューターの助言を受けることができます。

9

修了証書の授与

秋学期10単位以上、春学期10単位以上、計20単位以上履修した留学生には、短期留学プログラム修了証書を授与します。



1 コア・カリキュラム(必修科目)

■日本語・初級 ■秋・春学期開講：10単位 週5回

■担当コーディネイター：三浦香苗（留学生センター）

この授業は、日本語の学習歴が全くないか、少ししかない学生を対象とする。日本での日常生活に必要な初歩の日本語の技能を修得することを目的とし、授業では、初歩的な文法、語彙、表現、漢字を取り上げる。主眼は、話し言葉を中心とした運用能力を身につけることである。読み書きの指導も行うが、時間が少ないため、日本語能力試験4級（漢字100字、語彙800語）に合格できる程度を目指す。

■日本語・中級 ■秋・春学期開講：10単位 週5回

■担当コーディネイター：岡澤孝雄（留学生センター）

この授業は、既に日本語を150時間から250時間程度学んだ学生を対象とする。プレイスメント・テストによって上レベル（中級）下レベル（初中級）に分け、いずれのレベルでも文法、語彙、表現、漢字を取り上げる。日常的なことだけでなく、やや複雑な事柄も日本語で表現できるようにする。読み書きに関しては、上レベル（中級）は日本語能力試験3級（漢字300字、語彙1,500語）合格に十分な実力を目指す。

2 サブ・コア・カリキュラム(選択必修科目)

■日本人の心理と思想 ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：小牧純爾（文学部）

日本人の認知や行動や価値体系の幾つかの特性を明らかにするために、異文化間比較を行った実験研究並びに調査データに基づいて心理学の立場から話題を提供する。さらに、宗教学の立場から、日本の宗教の歴史及び日本人の心性形成に及ぼす宗教の影響について講述し、日本人の心性が日本文化にどのように顕在化しているかについて論じる。

■科学風土紀－加賀・能登のサイエンスー ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：本浄高治（理学部）

この講義は、石川県の加賀地方や能登地方の素材を基にして、郷土の伝統工芸（九谷焼、大樋焼、加賀友禅、竹細工、金箔細工など24項目）、食物（アマエビ、ズワイガニ、バイ貝、ホタルイカ、ツルアラメなど17項目）、風物（金沢城の鉛瓦、鉛瓦と蛇の寝御座、金沢霊沢、兼六園の桜、砂金など35項目）、偉大な科学者（桜井錠二、高峰譲吉、大幸勇吉、木村栄ほか19項目）及び文化遺産（金沢城、妙立寺（忍者寺）、野田山墓地など7項目）など、サイエンスに関する102項目のテーマについて講義を行う。成績評価は、レポートによって行う。





■日本の社会と文化 ■春学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：志村 恵（文学部）

8名のスタッフによる共同授業である。主要な講義題目とその内容は以下のようものである。

「日本文学における女性」、「日本における女性の歴史」

「日本におけるマイノリティー」：日本における少数者の問題を参加者の関心に応じて紹介する。（宗教的少数者、民族的少数者など。）

「日本人と宗教」：日本人は宗教に対して関心があるのかないのか極めて曖昧である。インド人と宗教との関わりと対比させながら、なぜそういうことが生じるか考える。

「日本の社会について」：社会学的、組織論的考察を行う。

「日本の地域社会」：北陸の農村の例を挙げながら、日本の地域社会のあり方とその変遷及び持続について考察する。

「日本人の言語行動」：日本の社会構造と人間関係を明らかにし、それと日本語の言語行動、言葉遣いとの関連を述べる。これに、美術史的な日本論が加わる予定。

■日本の自然と生物 ■春学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：中村浩二（理学部）

日本の多様で美しい自然について概説するとともに、金沢に位置する北陸地方の自然環境と生物について述べる。ビデオなどの教材を用いた講義のほかに、数回の見学旅行を行い、野外において地形、動物、植物などの解説を行う。訪問予定地は、金沢市近郊の里山や二次林（角間キャンパス周辺、湯涌、医王山など）、白山、加賀や能登の海、山などから選択する予定である。

3 専門コース（選択科目）

■英語学演習Ⅰ ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：斉木麻利子（教育学部）

この授業では、LFG理論（Lexical-Functional Grammar）に基づいた最新の論文を読む。生成文法（Generative Grammar）に関する詳しい知識が履修上の必須条件である。成績評価は、学期末のレポートによって行う。

■東アジアの国際政治 ■秋学期開講 4単位 週2回

■担当コーディネイター：ポール・ミッドフォード（法学部）

まず、中華の朝貢システム、西方の日本の植民地主義と太平洋戦争を検討する。後、東アジアに与える冷戦の影響を考えて、現在の地域政治に冷戦構造の崩壊の影響も検討する。特に、冷戦後に地域の多国間主義、地域の経済相互依存と中国の急速な経済開発を考える。最後に東アジアに将来の三つのシナリオを考えて：中華システムを帰り、欧州の多極の勢力均衡のシステム現れ、とか多国間化したアジアの安全保障の共同体。

教科書：Shuisheng Zhao, Power Competition in East Asia: From the Sino-Centric Era System to the Post Cold War Era

■日本経済：発展の過程と世界経済との関係 ■秋学期開講 1単位 週1回

■担当コーディネイター：小林 昭（経済学部）

戦前における日本の近代化と経済展開の歩みを概観した後、戦後日本の高度経済成長と社会的変貌、石油危機以降のハイテク化・情報化・経済の国際化と日本経済の変貌、世界経済と日本経済の関係を考察する。

■身近な微生物と地球環境 ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：田崎和江（自然科学研究科）

バクテリアによる様々な金属イオンの濃集とそのバイオミネラリゼーションについて述べる。このバクテリアの特性を利用し地球環境問題を解決する上で、鉱物学の知識と技術が大いに活用できる新しい分野が生体鉱物学である。更に発展させて、バクテリアを用いた実験生体鉱物学は汚染環境の浄化、新材料物質の開発、医療分野への貢献へと社会的要請に大いに応えられ、期待されている境界領域分野である。水銀、鉛、亜鉛、カドミウム、ストロンチウムなども私たちの身近な元素であり、今後の研究対象になるであろう。そして、生物による鉱物又は無機物質の沈着のメカニズムの解明が重要である。

■数学A ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：石本浩康（理学部）

この授業は、微分積分・線形代数の基礎的事項を修得した学生のためのものであり、現代数学への入門として役立つように意図されている。整数論、位相幾何学、複素解析学から選んだ話題を、そのための基礎的知識を復習しながら解説する。成績評価は、試験やレポートによって決まる。

■数学B ■春学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：一瀬 孝（理学部）

この授業は、微分積分・線形代数の基礎的事項を修得した学生のためのもので、現代数学へのいくつかのトピックス、特に、数論、力学系、シュレーディンガー作用素の数学的理論への入門を行う。成績評価は、学生への宿題の成果と最終試験によって行う。

■Introduction to Modern Physics ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：久保治輔（理学部）

アインシュタインの相対理論と量子論は、20世紀に生まれ育てあげられた近代物理学の最も重要な基礎理論である。この講義の目的は、理系の学生ばかりでなく、文系の学生をも対象に、特殊相対性理論と量子力学を分かりやすく紹介することである。相対性理論では、光速一定の原理、相対性原理、同時性、時間相対、アインシュタインのエネルギーと運動量の関係式を、また、量子力学では、古典物理学の限界、光の粒子性、波動-粒子双対性、ハイゼンベルクの不確定性原理、物質波等について議論する。



■Introductory experimental Physics ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：鈴木治彦（理学部）

現代物理学は、新しい実験技術の導入によって新しい物理学的概念、新しい物理学の分野が生まれ、技術の発展によってその分野が発展してきた。この授業では、その中でも特に技術の発展と密接に関係した、低温物理学、レーザー分光學、プラズマ物理学、電波分光學の各分野における最近のトピックスを取り上げ、どういう実験によってどういう実験結果が得られ、その結果の解釈としてどういう新しい概念が導入されたかを分かりやすく解説する。

■物質化学概論 ■春学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：須原正彦（理学部）

無機化学、有機化学、理論化学、分析化学などのフロンティアを高度な観点から解説し、化学の目指すものを理解させる。

■ハローケミストリーー化学最前線ー ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：須原正彦（理学部）

この授業は、化学の基礎知識と最近のトピックスを化学科の各研究分野の教官により講述するもので、取り上げる分野は、分析化学、有機化学、無機化学、錯体化学、放射化学、生物化学、電気化学、理論化学である。

■化学課題研究 ■秋・春学期開講 各3.5単位 週3回

■担当コーディネイター：須原正彦（理学部）

特定の研究分野に配属し、指導教官と相談の上研究テーマを決定し、半年間単位の課題研究を行う。これを通じ、化学研究に必要な実験的、理論的手法を学び、問題解決の能力を養う。

■植物と環境 ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：和田敬四郎（理学部）

植物の種々の環境要因に対し、長い進化の過程で獲得してきたすばらしい応答能力をそなえている。それはどのようなメカニズムなのか？地球上に多くの生物種と共に生存している人間として生理学的に問い直すことは大切である。この講義では、植物が光・温度・酸素・無機塩類といった環境要因にどのように応答するかを簡単な実験をも含めて理解することを目的とする。

成績評価は、討論・レポート及び試験によって判定される。



■計算科学A ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当：伊藤達郎（理学部）

無限に憧れる人間精神が解析学に結実したとすれば、代数学はその無限を有有限なものによって理解しようとする試みに強力な理論的枠組を与える。計算科学において離散数理、特に代数的組合せ論が近年ますます重要になってきたのは、本質的にはおそらくこうした理由によるであろう。この講義では、代数的組合せ論の基礎として、群の表現から出発して、アソシエーションスキームの理論を概説する。

■計算科学B ■春学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：樋渡保秋（理学部）

以下の内容について学習する。

- 1 モンテカルロ (MC) 法
 - 1-1 メトロポリス・ローゼンブルス・テラーによる計算
 - 1-2 Importance Sampling, Umbrella Sampling, Biased Sampling
 - 1-3 Grand Canonical / Gibbs Ensemble Sampling
- 2 分子動力学 (MD) 法
 - 2-1 基礎的事項
 - 2-2 各種物理系 (アンサンブル) の適用
 - 2-3 データ解析 (時間, 空間相関関数)
- 3 量子系の計算機シミュレーション
 - 3-1 QMC
 - 3-2 QMD



■東洋医学 ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：鈴木永雄（薬学部）

アジアには、中国医学とインド医学という2大伝統医学がある。講義では、東洋医学と現代医学の治療理論における相違点を紹介するとともに、喘息治療薬のエフェドリンや麻酔鎮痛薬のリン酸コデインなど、伝統医学で利用される生薬、さらに、有毒生物、海洋生物などに含まれる成分に由来し、現代医学に貢献している化学物質について解説する。また、薬学部附属薬用植物園内外での野外実習も企画されている。

■電気・電子・情報工学の技法 ■春学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：作田忠裕（工学部）

本授業では、高度情報化社会をささえる電気、電子、情報工学各分野の基礎的技法と最近のトピックスについて紹介する。取り上げる話題は、エネルギー、制御、電子材料、通信 (電波、光) 及び電子工学、情報工学と幅広く行き渡っている。授業の形態は、講義のみならず、教官や日本人学生との対話や実習で構成される。

成績評価は、レポートによる。

■流体力学と伝熱 ―環境と地球物理への応用― ■春学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：木村繁男（工学部）

運動量やエネルギーについての支配方程式から出発し、それらが環境や地球物理の問題に関連した流れや熱移動現象を解析する上でどのように利用されるかを述べる。具体的トピックとしては、地殻内での熱伝導、湖やマグマの凝固プロセス、湖沼内での移動現象、地下水流れ、地熱現象等を取り上げる。

成績評価は、試験かレポートによる。

■土木建設工学総論 ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：鳥居和之（工学部）

土木建設工学は、安全で快適な環境で生活できるような豊かな社会、国土造りとその保全を行うための方法を探究する学問である。そのためには、科学的な立場だけでなく、社会的立場からどう考えていったらよいか土木建設工学の教育、研究の対象となる。土木建設工学科では5つの講座を設け、幅広く特色のある教育、研究を行っている。この講義では、最初に学科長、主任教授より土木建設工学の概要説明を行う。その後、構造工学、水工学、地象工学、都市施設計画学、環境衛生工学の各学問分野の担当教官より、各学問の基本概念、歴史的背景と現状、さらに今後の展望について講義を行う。

■高分子化学入門 ■春学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：石田真一郎（工学部）

セルロースやタンパク質などの天然物からプラスチック、合成繊維、合成ゴムなどの合成物まで、高分子化合物は今やわれわれの生活に欠かすことができない材料である。

この授業では、まず歴史、分類、特性など高分子に関する一般的な基礎知識の講義から“高分子とは何か”を習得し、次にその合成と物性について実験手法をも含めて詳細に学び、さらには高分子工業の現状と将来についても言及する。

■計算機援用工学演習 ■秋学期開講 2単位 週1回

■担当コーディネイター：山崎光悦（工学部）

この授業は、設計、生産、加工、計測、制御等の機械工学におけるコンピュータを援用した工学の基礎について、理解を深めることを目的としている。授業内容は、工業数学、計算機プログラミング、CAD/CAM等に関する講義、実験、実習である。

成績評価は、試験あるいはレポートによる。

4 自主研究(選択科目)

■秋学期2単位／春学期2単位 週1回

留学生自身が定めたテーマについて、専門分野の教官の指導の下に研究する。

各学期の終了前にレポートを提出する。

日本人学生のチューターを優先的に付けます。

出願手続

1 出願書類

- (1)金沢大学短期留学プログラム入学願書
- (2)推薦状
- (3)学業成績証明書(在籍している大学が発行)
- (4)日本国際教育協会短期留学推進制度(受入れ)申請書
- (5)日本国際教育協会短期留学推進制度(受入れ)申請書の在籍証明書
- (6)在留資格認定証明書交付申請書
- (7)在学証明書(在籍している大学が発行) 2通
- (8)写真(上半身, 3cm×4cm) 3枚

2 締切り期日

1998年秋学期(10月)・1999年春学期(4月) 希望者: 1998年4月10日までに提出

3 提出先

出願書類は、在籍している大学と金沢大学との大学間交流協定を締結している場合は、在籍する大学の学生交流担当責任者を通じて下記宛に提出してください。

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学学生部留学生課短期留学係

在籍している大学と金沢大学の学部等と部局間交流協定を締結している場合は、在籍する大学の学生交流担当責任者を通じて、金沢大学の当該学部等の学生交流担当者宛提出してください。

4 結果の通知

短期留学プログラム入学の可否及び日本国際教育協会短期留学推進制度の奨学金の採否の結果は、在籍している大学の学生交流担当責任者宛に通知いたします。

- (1)短期留学プログラム入学の可否: 1998年5月下旬
- (2)日本国際教育協会短期留学推進制度の奨学金の採否
 - ①1998年秋学期(10月) 入学応募者: 1998年6月下旬
(1999年1月～3月15日来日予定者を含む。)
 - ②1999年春学期(4月) 入学応募者: 1999年3月上旬～中旬

なお、日本国際教育協会短期留学推進制度の奨学金に採用されなかった場合、他の奨学金又は自費で留学することも可能です。



必要経費

1 授業料等

(1)特別聴講学生 (学部学生/大学院学生)

※1 検定料	¥9,800
※1 入学料	¥27,500
※2 授業料 1単位	¥13,100

(2)特別研究学生 (大学院で専ら研究指導を受ける場合)

※1 検定料	¥9,800
※1 入学料	¥82,500
※2 授業料 月額	¥26,100



※1：金沢大学と学術交流協定を締結している大学に在籍している学生は、検定料及び入学料が免除されます。

※2：金沢大学と授業料相互不徴収協定を締結している大学に在籍している学生で、この協定に基づき推薦された学生は、授業料も免除になります。

注意：授業料等は、1997年度の金額です。この金額は、年度始めの4月に変更される場合もあります。

2 生活費

金沢大学国際交流会館寄宿料	¥4,100 (単身者のみ入居可能)
光熱水料	¥13,000
食費	¥40,000
こづかい等	¥20,000

注意：光熱水料、食費、こづかい等は、平均的留学生の推定の月額です。個人の生活状況や嗜好により大幅に異なります。また、光熱水料は、冬期間はガス暖房が必要となり、他の季節とは大幅に異なります。一つの目安とと考えてください。

日本国際 教育協会 奨学金制度

文部省では、諸外国の大学との学生交流の拡充を図るため、日本国際教育協会の短期留学生のための奨学金制度を支援しています。

短期留学のための奨学金には、金沢大学と他の日本の協定大学との併願は認められません。

(1)対象地域：全世界

(2)対象大学：金沢大学と大学間(部局間を含む。)交流協定等を締結(予定)している世界各国の大学

- (3)対象者：①上記大学に在籍する学生(大学院生を含む。)で日本国籍を有しない者
②協定等の適用を受け派遣・受入れを許可する者
③在籍する大学における学業成績が優秀で、人格等に優れている者
④留学の目的が明確で、日本(金沢大学)への留学により、効果が期待できる者
⑤経済的理由により自費のみでの留学が困難な者
⑥日本(金沢大学)での留学期間終了後、再び在籍大学に戻り、学業を継続する者

(4)期間：6か月以上1年以内

- (5)奨学金等：①奨学金月額 ¥80,000
②往復渡航費(エコノミークラス)
③渡日一時金 ¥25,000

交流協定校 — 覧

金沢大学短期留学プログラムへの応募者は、原則として金沢大学と大学間又は部局間で学術交流協定を締結している大学に在籍していなければなりません。部局間協定の場合は、その対象となる学部に応募する時のみ、検定料・入学料・授業料不徴収となる資格が生じます。また、授業料不徴収覚書を締結していると授業料も不徴収となります。

1997年12月現在、金沢大学は、次の大学、研究機関と学術交流協定を締結しています。

※は、金沢大学と大学間又は部局間の授業料等の不徴収、単位互換の覚書が締結されている大学です。☆印は、現在授業料等の不徴収、単位互換の覚書締結を進めている大学で、1998年10月までには締結される見込みです。

◎大学間交流協定校

中華人民共和国	蘇州大学
フランス	第一ナンシー大学※ 第二ナンシー大学※
ドイツ	ジーゲン総合大学☆
アイルランド	ダブリンシティ大学
連合王国	リバプール ジョン モアズ大学 ※ シェフィールド大学 ※
アメリカ	ペンシルバニア大学 ニューヨーク州立大学バッファロー校 ※ ウィリアム アンド メアリー大学 ※ タフツ大学 ※



◎部局間交流協定校

中華人民共和国	中国科学院・化学研究所 東北師範大学・社会学部 ※ 蘇州医学院・生物技術研究所 華西医科大学・公衆衛生学院、医学院
韓国	韓国科学技術研究院・遺伝工学研究所 釜山国立大学・分子生物学部、遺伝工学研究所
タイ	モンクット王工科大学トンブリ校・工学部 ※
インド	プーナ大学サンスクリット・ボラークリット語学部 ※
インドネシア	バンドン工科大学理学部 ※
ポーランド	ルブリン工科大学 ※
連合王国	オックスフォード大学ペンブロッックカレッジ
ロシア	イルクーツク経済アカデミー ※ 極東国立総合大学附属東洋大学 ※ カザン大学 国立クラスノヤルスク医科大学
アメリカ	ニューヨーク州立大学ニューボルツ校

(金沢大学協定部局)

理学部
経済学部
がん研究所
がん研究所、医学部
がん研究所
がん研究所
工学部
文学部
理学部
工学部
文学部
経済学部
経済学部
理学部
医学部
教育学部

◎大学間交流協定協議中の大学

オーストラリア	オーストラリア国立大学
ベルギー	ゲント大学
ロシア	カザン大学

入国手続

日本へ入国するためには、旅券(パスポート)の発給を受け、その旅券にあらかじめ日本国大使館・領事館で入国する目的に合致した査証(ビザ)を受けることが必要です。

この短期留学プログラムに入学する留学生は、「留学」の在留資格を取得して金沢(日本)に滞在することになります。金沢大学では、ビザの申請方法として「在留資格認定証明書による方法」を勧めています。

「在留資格認定証明書による方法」は、留学生に代わり金沢大学学生部留学生課が、日本の入国管理局に「在留資格認定証明書」の交付を申請し、交付された「在留資格認定証明書」を金沢大学学生部留学生課から留学生宛に送付します。留学生本人は、日本国大使館又は領事館で旅券と共に提示して「査証発給」の申請を行います。

この「在留資格認定証明書」は、日本に上陸する時に提出する必要がありますので、必ず持参してください。

なお、金沢大学が「在留資格認定証明書」の交付を申請するに必要とする書類は、出願書類に含まれております。

学生生活

1

住居

金沢大学国際交流会館

金沢大学には、角間キャンパスに留学生と外国人研究者のための宿泊施設があります。短期留学プログラムの留学生は、全員この金沢大学国際交流会館に入居できます。ただし、単身者に限ります。

施設の概要

①居室数 79室(留学生用58室・研究者用21室)

②入居期間 1月以上1年以内

③必要経費(留学生)

寄宿料(月額4,100円)、光熱水道料、入居時預託金(20,000円)等

④設備備品

エアコン、ベッド、書棚付きデスク、食器棚、冷蔵庫、電気掃除機、キッチン、トイレ、バス等

2

食事・買物

金沢大学のキャンパス内には、市内の一般の食堂よりも安い値段で食事を摂ることのできる食堂があります。また、本、雑誌、文房具及び日用品を販売している店もあります。

3

健康管理

金沢大学には、保健管理センターがあり、学生への健康に関するサービスを行っています。同センターでは、毎年4月から5月にかけて定期健康診断を、また、12月頃には10月入学の留学生のために健康診断を実施しています。

なお、随時センターの医師が健康に関するアドバイスや応急の手当を行っています。

金沢大学留学生懇談



4

国民健康保険

国民健康保険は、疾病・負傷のため医療機関で治療を受けた場合に要する医療費の一部を負担する国の医療保険制度で、医療機関で治療を受けた場合は治療に要する医療費の20%を支払うことで済むこととなります。

金沢大学では、留学生全員に国民健康保険への加入を勧めております。

なお、この保険の加入に当たっては、毎月1,600円の保険料を支払う必要がありますが、金沢市の支援により、全額補助されます。

5

医療費補助

留学生が、日本国内の医療機関で疾病・負傷のため治療を受けた場合、本人が支払った治療費の80%が日本国際教育協会から補助されます。

したがって、留学生は、歯科を含む医療費の4%を負担するだけで済みます。

6

課外活動・レクリエーション

有意義な学生生活を送るためには、授業や研究活動に専念するだけでなく、課外活動に参加することが大切です。

現在、金沢大学には、47の文科系サークルと37の体育系のサークルがあります。文科系サークルには、宝生会(日本の伝統的な劇である能や狂言を練習するサークル)、合唱部、茶道部、琴・尺八部(琴は日本の伝統的な弦楽器、尺八は日本の竹笛)、竹系会(日本の伝統的な楽器によるアンサンブル)などがあります。一方、体育系サークルには、柔道、剣道、空手道、弓道(日本のアーチェリー)、サッカー、アメリカン・フットボールなどがあります。

留学生がこれらのサークルに参加することは歓迎され、なかには、茶道、琴、尺八、謡(能をうたうこと)などの日本の伝統的な芸能を学ぶサークルに参加し、日本の文化をより深く理解しようとする留学生もいます。また、柔道、空手、弓道などの日本の伝統的な武術を学ぶサークルに参加し、有段者となった留学生もいます。

7

アルバイト

勉学・研究以外の活動をして収入を得ようとする場合には、入国管理局で資格外活動許可を得る必要があります。短期留学生の場合は、入国後3か月が過ぎたら申請することができます。1日2時間までのアルバイトが可能となります。

8

交流団体

金沢大学には、日本人学生を中心とした「金沢大学学生国際交流団体(通称: KISS)」があります。

この団体は、金沢大学の外国人留学生と日本人学生の交流を通じて、相互の友好的関係を維持・促進することを目的に、外国人留学生の日本語学習の補助、学内外の活動の企画、授業及び生活一般の相談及び支援及びレクリエーションの企画等を行うボランティア団体です。

9

交流行事

金沢大学が企画する交流行事の他に、金沢大学学生国際交流団体や石川県内の様々な国際交流団体が企画するホームビジット等の交流行事が開催されます。これらの行事に参加することにより、日本理解がより深まることになります。積極的に参加することを勧めます。



金沢大学ま での経路・ 大学キャン パス

金沢市は、日本列島のほぼ中央に位置し、東京から航空機とバスを乗り継いで約2時間、電車で約3時間40分、大阪からは電車で約2時間30分を要します。

①成田国際空港から

航空機

羽田空港から小松空港（約1時間）、1日8本

なお、小松空港から金沢駅までバスが運行されており、その所要時間は約1時間です。

JR電車

東京駅から上越新幹線長岡経由で金沢駅（約3時間40分）

高速道特急バス

東京池袋駅から金沢駅（約7時間30分）、1日4本

②関西国際空港から

JR電車

大阪駅から金沢駅（約2時間30分）

高速道特急バス

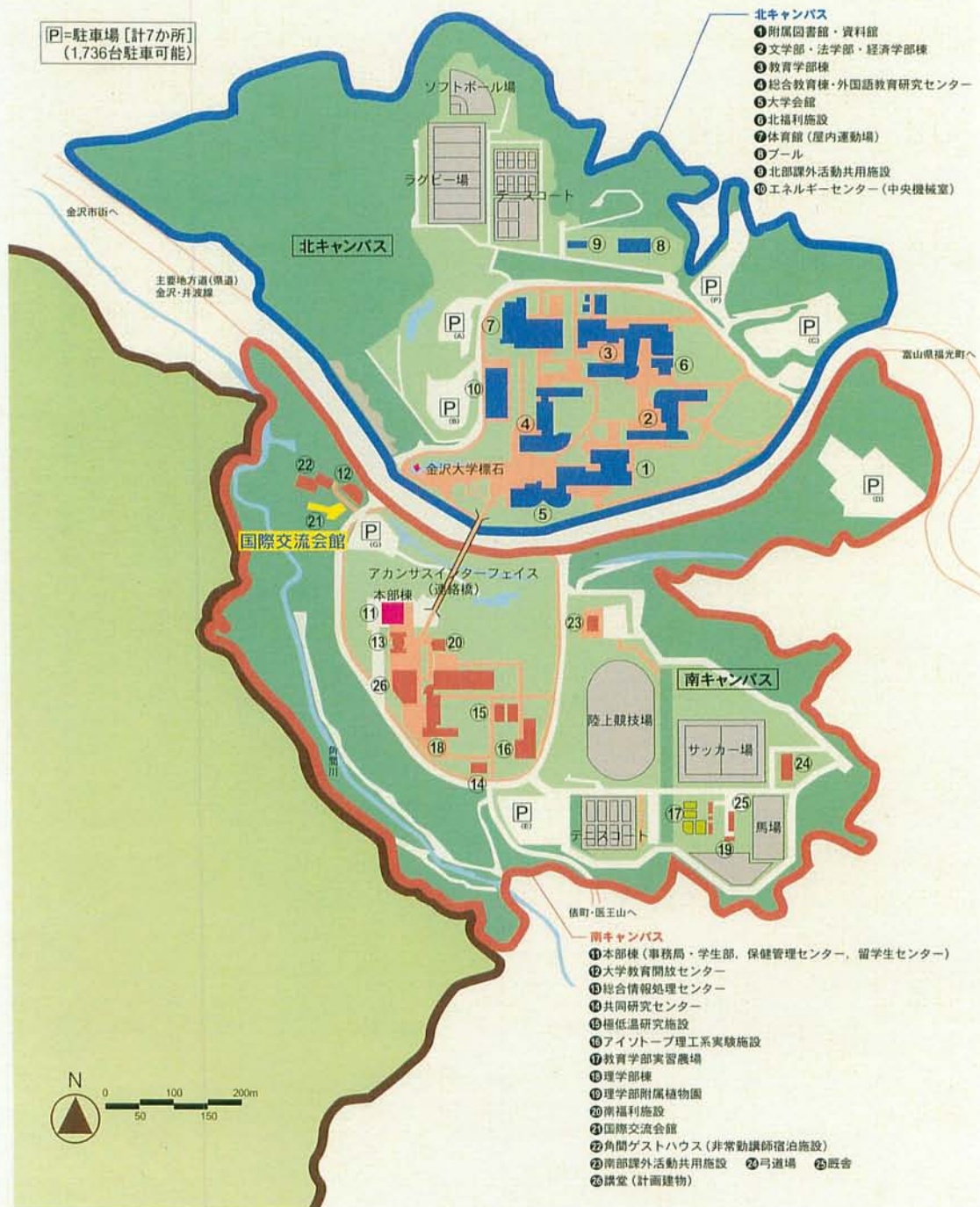
京都駅から金沢駅（約4時間）、1日5本

金沢駅（バスターミナル）から角間キャンパスまで

「金沢大学行き」路線バス（路線「91」、「93」、「94」）に乗りし、「金沢大学中央」で下車（約40分）



角間キャンパスマップ



何か質問があれば、下記に連絡願います。

住所：〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学留学生センター

Tel : 81-76-264-5831,5191

Fax : 81-76-234-4043

E-mail : gak5190@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp



Kanazawa University Student Exchange Program